

# タッチスクリーンの操作

指またはペンを使って図形を描く場合の操作はマウスを使う場合と多少異なります。タッチスクリーンの操作の場合の大事なポイントをここで説明します。

## 1. 「グリッド吸着」の機能

より正確な操作をするためには「グリッド吸着」をオンにすることをお勧めします。「表示」メニューの「グリッド間隔」を適切な値に設定してから、「グリッド吸着」を選択します。「グリッド間隔」を使えそうな最小値に設定することをお勧めします。

## 2. マウスのレフトクリック

タッチスクリーンに一回タップします。

## 3. ライトクリック

いくつかの操作はライトクリックを使う必要があります。マウスを使わないときはライトクリックができないので代わりに別の操作を使います。

**カラーパレット：**カラーパレットの色をライトクリックすることで線とテキストの色を設定しますがタッチスクリーンでは長く色を押すことで同じように設定できます。

**ツール：**連続壁ツール、など、操作を終わらせるためにライトクリックを使うようなツールの場合は二回早くタップします。

## 4. ダブルクリック

タッチスクリーンに二回タップします。

## 5. マウスをドラッグする

タッチスクリーンに指またはペンを付けて、付けたままでタッチスクリーンの上で動かします。

## 6. 連続クリックを使うツール（連続壁ツール、多角形ツールなど）

ア) 描きながら寸法を表示する方法

図形を描き始めたいポイント（一番目の角）に指（またはペン）を押して、そのまま二番目の角を置きたい場所まで動かします。一旦タッチスクリーンから指を離して、もう一回二番目の角の位置に指を押して、そのまま三番目の角を置きたい場所まで動かします。同じように作業を続けて、最後に二回タップします。

イ) 描きながら寸法を表示する方法

図形を描き始めたいポイント（一番目の角）にタップします。二番目の角を置きたい場所にタップします。同じように作業を続けて、最後に二回タップします。

## 7. 矢印キー

面積が小さい図形（特に透明な図形）を指でドラッグして動かすのが難しいです。このときは矢印ツールを選択して、指を図形の上でドラッグして図形を選択してから仮想キーボードの矢印を使うと便利です。通常の仮想キーボードに上下の矢印キーがないため、大きい仮想キーボードに設定する必要があります。

## 8. ハンドルの大きさ

オブジェクト（図形など）を選択すると黒い四角（ハンドルと言います）がオブジェクトの周りに表示されます。このハンドルを使ってオブジェクトのサイズの調整ができます。ハンドルが小さいと指で動かしづらい場合があります。ハンドルの大きさは「オプション」メニューの「初期設定」ダイアログで調整できます。

## 9. キー操作

タッチスクリーンを使う際、キーボードの代わりにキーボタンを使えます。

「Shift Key」ボタンと「Ctrl Key」ボタンを一度タップするとシフトキーまたはコントロールキーを押されている状態にします。もう一度タップするとこの状態が解除されます。「Delete Key」ボタンをタップすると選択されているオブジェクトが削除されます。

「小さいパレット」を選択する場合これらのボタンは表示されません。「アシストキー」メニューを代わりに利用できます。（マウスの操作では機能しません。）キーボタンはマウスの操作で利用できません。

## 10. 拡大と縮小

図面を拡大すると操作し易くなります。ツールパレットの「拡大/縮小」ツール（虫眼鏡）をタップして画面にタップすると図面が拡大されます。「Ctrl Key」ボタンを押してから「拡大/縮小」ツールを使うと図面が縮小されます。